

支援員・SC・SSWと連携した不登校支援

不登校生徒の状況

対象生徒は現在中学校3年生であり、中学校1年生の時から不登校傾向、2年生進級後から不登校状態である。チャレンジクラスにつなぐなど継続的な支援を行っているが、授業を受けることや同学年の生徒との関わりに意義を見いだすことが難しく、現在は月1回程度校内別室を利用している状況である。

具体的な取組

○支援員の配置と継続した支援

支援員を複数年度にわたり配置することにより、当該生徒への働きかけが継続され、信頼できる大人の存在や安心できる場所の確保につながった。



○定期的な面談の実施

学校に来ることができない期間も、電話、家庭訪問及び手紙などを使用して当該生徒と連絡を取ることで、定期的な面談を行えるように働きかけた。また、担任だけの対応にならないよう、学年主任、不登校支援コーディネーター及び支援員も交えながら面談を行った。

○OSSW・SCの活用

SSWが朝の登校の前に家庭訪問をし、当該生徒へ登校の働きかけを行った。また、SCを講師とした保護者及び教員向けの講演会を開催した。



○校内教育相談委員会の開催

各学年担当、管理職、SC・SSW、特別支援・不登校コーディネーター等のメンバーで教育相談委員会を毎週開催することを通して、当該生徒を含む不登校傾向にある生徒の情報共有を図った。



成果

当該生徒は、中学校2年生のときは不登校の状態であったが、中学校3年生に進級してからは、月に1回程度の校内別室登校を行うことができるようになった。

課題

不登校期間の学習内容の補充と、コミュニケーションの取り方の指導を継続して行っていく。